



小代のコウホネ

昨年秋にゆったりウォークを企画した際に、小代の「シモツケコウホネ」の群生地近くで、その保全に取り組んでおられる皆さんと少しかかわりが出来た。その後日談である。

私は植物も全くの門外漢だが、日本画の題材として描かれたコウホネは何度か見た記憶があり、名前くらいは知っていた。そうしたコウホネには水上と空中に出た葉があり、小代のコウホネのように、ワカメのような葉が水中にあって花だけがニューツと突き出たコウホネは完全にそれらのイメージとは違っている。

縁というものは不思議なもので、後にこのコウホネが新変種であることを特定することになる志賀さんが、はるばる神戸からやってきて始めてこの群生地の前に立った、その瞬間に立ち会ってしまった。ちょうど一年前のことになるが、折からの激しい雨の中、全身ずぶぬれになるのも気付かぬかのように志賀さんは熱心にコウホネを観察しつつその特異性を語った。その姿に素人の私もこのコウホネの貴重性を何となく実感した。

大きな問題はこの地域で現在、圃場整備の計画が進行していることである。その後、志賀さんたちは、事態の緊急性を考慮して、普通なら本年12月の新種登録を待って発表するはずの研究結果を早めに発表した。この結果が下野新聞の本年6月18日付けのトップ記事へと展開した。コウホネの保全は圃場整備計画にも一部組み込まれ、群生地部分は、かろうじて残され、上流約750メートルのところ「生態系保全空間」という部分も出来、これまでの空石積(コンクリートで固めない石積み)の水路も一部残されることになった。

だが、そうした計画が分かってきた7月に、再び現地を訪れた志賀さんの顔は心なしか曇っていた。上流の「生態系保全空間」にはコウホネはほとんど自生せず、移植が前提とされている。(この点につき最近、推進協議会向けに書かれた意見書において、志賀さんたちは移植は困難と結論づけている。)

また群生地部分も計画ではその上流部、下流部がすべてコンクリートのU字溝で固められることとなる。これまで土水路を通過してきた水が2キロメートルに渡るU字溝を通った水が変わるとき、それがコウホネを含むこの水路の多くの動植物に与える影響が志賀さんには心配だったのだろう。地元でもコウホネを含む小代の水環境を真剣に考える人たちが8月に「小代を愛する会」を立ち上げた。

圃場整備を推進する農家の方たちからすればコウホネは水路の流れの邪魔になる雑草としての側面を持つ。だが一面から見れば、学術的には水中にしか葉をもたないコウホネは世界でも、ここ小代と南那須にしか存在しない貴重な種である。また流水に生育するコウホネはいまや全国的に見ても、ほとんどなくなりつつあると聞く。そうしたことから、コウホネはその美しさを含めて地域に固有な、貴重な観光資源、地域おこしの起爆剤にも充分なりえるだろう。

なんとか、そうした価値が地元の皆さんにも広く認められて、いつまでもコウホネが、水路に咲き続ける小代であって欲しいと願うばかりである。

(森)

目次:

小代のコウホネ 1

事務局より 2
活動日誌

ゆったりウォーク 2
秋の田川を歩く

シモツケコウホネ 2
観察会のお知らせ

秋田の山沢にて 3

川むしたんけん隊 4
田川にて



水中から立ち上がるコウホネの花。さしわたし3cmくらい。(撮影:2004年9月)

事務局より・活動日誌

- 6月 4日(土) 流域の会・定例会参加
- 7月 2日(土) 流域の会・定例会参加
- 7月16日(土) 定例会
- 8月 6日(土) 流域の会・定例会参加
- 9月22日(木) 定例会
- 10月 6日(木) 定例会



一昨年秋、田川ゆったりウォーク

ゆったりウォーク・田川編 (今市から宇都宮へ・第1回)のお知らせ

11月20日(日)

午前9時半～午後2時

集合場所

新里街道 犬塚橋 (猪倉 セブンイレブンの近く)

参加費

100円(保険料など)、昼食持参

持ち物: 雨具、ウォーキングに適した服装と靴、常備薬など

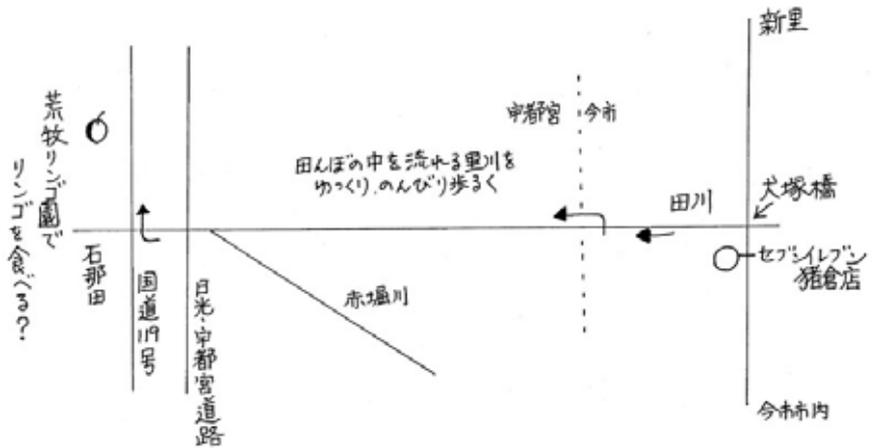
申し込み: 0288-26-3324 (塚崎)、

0288-27-2183 (森)

秋の田川を今市から宇都宮へのんびりゆっくり歩きます。

犬塚橋付近の田川

田川ゆったりウォーク略図
～犬塚橋から石那田まで～



野河ホネ観察会

シモツケコウホネ

集合場所 東武下小代

10月13日(木)
10:30～12:30

東武日光線 電車がお勧めです！
下小代駅集合 駐車は駅前の空き地にどうぞ

参加費 100円(保険他)
問合せ 0288-27-0923(柴田)
※事前申込は不要です。

昼食は解散後、各自でお願いします。近くには小代行川庵などがあります。

今や、河骨は栃木県ではとても珍しくなった水生植物です。それを取り巻く豊かな水環境を楽しく、じっくりウォッチング！



秋田の山沢にて

いくつかの堰堤を越えるそこは別世界のような場所だった。夏だと言うのに目前には巨大な雪渓とまだ芽生えたばかりのやわらかな若葉。そして、その流れは細く冷たかったが、岩魚はホツホツと姿を見せてくれた。「もうここで終わりにしようぜ」と仲間のSに声をかけ、堰堤下の小さな深みに終わりのフライを静かにキャストした。何気なく隣を見ると、良型をバラし残念がるSの姿…。と、その時オレのフライが突然水中に引き込まれた。反射的にロッドを立て魚をロックオン…。グングン、クネクネと大物の手ごたえがする。久々の感触…。やがて、腹に一筋のオレンジ色が鮮やかなニッコウイワナが現われた。

ここは秋田と青森の県境の山沢。冬から初夏までの苛酷な季節を何度生きのびてきたのだろうか…。ゆっくりと元の住家に戻ってゆく岩魚にアソんでくれてありがとう。この自然に仲間にはいからありがとう…。

(隅)

イベントのお知らせ：「ハッ場ダム住民訴訟一周年集会」

日時：2005年11月27日(日) 午後1時15分～4時20分

場所：南大塚ホール(JR山手線大塚駅南口下車 徒歩5分)

東京都豊島区南大塚2-36-1 TEL/03-3946-4301

* オープニング・ミニコンサート 演奏：タンパロン 訴訟経過報告 ハッ場ダム現状報告

講演『はじめて国の巨大ダムを止めた村のたたかい』藤田 恵(元徳島県木頭村村長)

質疑応答 一都五県からの報告 アピール採択 集会宣言 資料代：1000円

主催：ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会

東京都千代田区麹町6-4 麹町ハイツ502 谷合周三法律事務所 TEL/03-3512-3443

コウホネ(河骨)

北海道～九州, 朝鮮半島の小川や沼にはえるスイレン科の多年生水草。根茎は白くて太く、水中葉は薄い膜質, 水上葉は長卵形で長さ20～40cm, 基部は矢尻形で厚くつやがある。花は夏咲き, 萼片(がくへん)が花弁状で黄色5弁。花弁は多数あっておしべ状となる。おしべは多数, めしべは1個。根茎を乾燥したものを川骨(せんこつ)といい, 強壮, 止血など薬用にする。

(マイペディア(C)株式会社日立システムアンドサービス)

左: こんな道ばたの小川に咲きます。

水中には「わかめ」のような葉が広がっています

下: 水の中から花を咲かせます。



田川で「川むし探検」

猪倉児童クラブ・「和音」の夏休み行事

今年も暑い夏でしたね。7月30日(土)、児童クラブの子どもたちと保護者の方たち、そして私たちスタッフあわせて30数名が、泉福寺下の松の木橋で「川むし探検」を行いました。去年に続いて2回目です。前日には福田区長さんが土手の草刈りをしてくださり、安全に川に入ることができました。子どもたちはもちろんですが、参加した大人の方々にも楽しんでもらったのではと思っています。

7月25、26日の台風襲来で、すっかり流されてしまったかと心配していた川虫は、しっかり生きていました。去年よりも種類は多かったと思います。ドジョウやハヤまで取れて子どもたちは大喜びでしたね。大きなサワガニに私は感激しました。水の汚れ具合を教えてくれる生き物を「指標生物」と言います。その数と種類を調べると、やっぱり松の木橋付近は「水質階級」でした。もう少し流れが緩ければ川に入って泳げたと思いますので、そこだけちょっと惜しかったですね。皆さんのおかげでいい一日になりました。ありがとうございました。

水質階級

ヒラタカゲロウ



ナガレトビケラ



ヘビトンボ

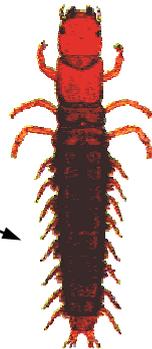
ブユ(以上は幼虫)

サワガニ

カワニナ

ヒル

無し



その他の川虫 シロタニガワカゲロウ・マダラカゲロウ

ヒゲナガカワトビケラ・コカゲロウ

オニヤンマのヤゴ・カワトンボのヤゴ

タガメ・ドジョウ・ハヤ

(塚崎)

画像は「水生昆虫図鑑」 <http://www.city.sapporo.jp/eiken/river/zukan.htm> より

編集後記

9月発行予定が、いろいろな行事の都合で10月になってしまいました。のんびりしていると、あっという間に年末になってしまいそうな勢いで、時間が容赦なく過ぎていきます。年齢とともに時間の感覚が変わるといいます。若いうちはゆっくり流れていた時間が、年を取るにしたがって飛ぶように過ぎるといいます。個人の感覚ですから、数値であらわすのは難しいでしょうが、納得してしまうのは自分が年を取ったということなのかもしれません。いっぽう、人間には体内時計というものがあって、それにしたがって、さまざまな生理機能が働いているとも聞きます。からだの中に時間を刻む「タイマー」があり、脳がそれを基準として使うならば時間の感覚は一定のはずです。けれど、仕事をしているとき、休みのとき、読書をしているときなど、さまざまな場面で時間の感覚は異なっているように思えます。人間以外の生き物、たとえば川底に潜んで成虫になるのを待つ川虫たちは、どんな時間を生きているのでしょうか。(T)

連絡先

〒321-1102 今市市板橋1732-1 森方
今市の水を守る市民の会

郵便振替口座

00140-4-535550

0288-27-2183 (8時~17時:森)

0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>



子供たちの声

ヒラタカゲロウが気持ち悪かった
楽しかった 泳ぎたかった。川虫
は気持ち悪かった 楽しかった。川
虫をつかまえるのがおもしろかった
虫をつかまえるのは楽しかった
楽しかった。川に入って気持ちよ
かった 川にはいりたくなかった...

田川にいたサワガニ

